

授業科目名	保育内容健康Ⅱ	担当教員名	安井 嘉佑
必修/選択	選択(幼稚園教諭2種免許/保育士資格)	開講学年・学期	1年 後期(年間開講数 2講座)
科目区分	教職・保育に関する科目	単位数	1単位(15時間)
施行規則に定める科目区分等	領域及び保育内容の指導法に関する科目-保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む) 保育の内容・方法の理解に関する科目(別表2)	授業方法/担当形態	演習 / 単独
		特記事項	
授業の到達目標	<p>各年齢に応じた運動遊び(ボール・フラフープ・マット・跳び箱・サーキット・ごっこ遊びなど)を紹介し、実践する。</p> <p>(1)コミュニケーション能力の習得 (2)技術の理解 (3)技術の習得 (4)指導法の理解</p> <p>1-保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p> <p>(1)各領域のねらい及び内容:幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 ①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ②当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ④領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想:幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 ①幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ②各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 ③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ⑤各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>2-保育内容演習</p> <p>(1)養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 (2)子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 (3)上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 (4)子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p>		
授業の概要	子どもたちの、発育発達状況を考慮し、各年齢に応じた運動遊び(ボール・フラフープ・マット・跳び箱・サーキット・ごっこ遊びなど)を紹介し、実践する。 また、幼児体育の補助方法も学生同士で実際に実践し様子を感じ取る。		
テキスト	使用しない		
参考書・参考資料等	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社)		
成績評価の方法	授業参加態度等…10%、平常点…20%、理解度試験等…20%、定期試験(実技)…50%		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	授業内容の説明とマット運動(前転・後転)指導法 補助法	(1),(2),(4)	
第2回	マット運動(前転・後転)完成	(1),(2),(3)	
第3回	マット運動(開脚前転・開脚後転など)指導法 補助法 導入・展開・完成	(1),(3),(4)	
第4回	ボール遊び(投げる・取る・蹴る)指導法 導入・展開・完成	(1),(3),(4)	
第5回	跳び箱 完成	(1),(2),(3)	
第6回	跳び箱 指導法 補助法 導入・展開・完成	(1),(3),(4)	
第7回	サーキット 導入・展開・完成	(1),(3),(4)	
第8回	指導案作成 模擬指導(グループ制)サーキット	(1),(2),(3),(4)	
定期試験	実技試験		